

京都シェアワセ運ぶ情報誌の 564 2017年 9月 福祉

Contents

- 皆で発信 福祉の魅力
～福祉職場の人材確保対策～
- 誰もが仕事を通して地域の担い手になる
—さんさん山城の農福連携—

くらしをつむぐ
夢中！熱中！ふくしびと



もぐさ

夏も終わりが
近づき少し切ない

い気分を秋を待つ人も多いのではないかと。夏の休暇は新しいことへのチャレンジや、これまで時間がとれなくてなかなか手が付けられなかったことに取り組むなど様々な体験をする良い機会でもある▼府内のとある小学校の校長先生が「家族で海水浴に行ったり観劇などの文化的体験の有無がその子の生きていく力に大きな影響を与える」と話されていた▼経済的に困窮していたり、ひとり親家庭の親でダブルワーク、トリプルワークで働いているため、そういった体験ができてにくい家庭も現実にはあるだろう。また、共働き家庭も含めて子どもが学校などから帰っても家に誰もいないこともある▼文化的な体験の積み重ねだけでなく、子どもがその瞬間に感じた嬉しいこと、悲しいこと、切ないこと、楽しかったことなど、誰かに聞いてほしいのに話す人がいないことが、もしかしたら一番つらいことなのかもしれない▼私自身も子どもと過ごす時間があまり取れないことに胸を痛める日々だ。そんなとき、親や先生だけでなく子どもを気にかけて話しかけてくれる人の存在や安心できる居場所、親以外の大人と触れ合う場所がとても心強い▼大人も子どもも同じ時代を過ごしている仲間として誰もがつながりを感じて暮らせる社会でありたい。

(NK)

皆で発信 福祉の魅力 福祉職場の 人材確保対策

少子高齢化が進み日本全体で働き手の減少が問題となっています。特に介護・福祉現場では人手不足が深刻で人材確保・育成・定着がここ数年の課題となっています。

今回は、福祉人材・研修センター（以下、「人材センター」）が関わる就職フェア事業を通して、人材確保の現状について紹介します。

介護・福祉人材が不足している現状

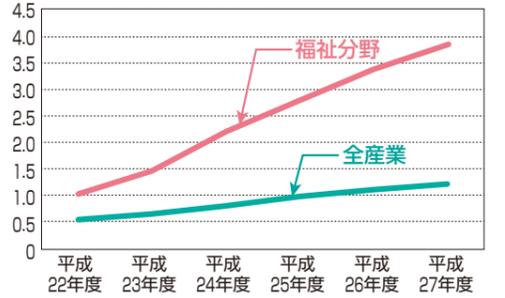
▼2025年問題
平成27年6月に国が発表した「介護人材需給推計」では、団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）となる2025年に、介護・福祉人材は253万人の需要を見込んでいますが、供給が

215万人で38万人が不足するとされています。

雇用情勢

有効求人倍率はリーマンショックを底に年々上昇し、平成29年6月の全国全産業平均は1.51倍でバブル経済期の水準を超え、正規職員の有効求人倍率は1.01倍で、平成13年の調査以来初めて1倍となり、選択をし

表1 有効求人倍率の推移（全国年度平均値）



養成校の現状

▼大学の学生数

全国の学生数は平成23年度に289万人、27年度では286万人でほぼ横ばいです。学部別の同様の比較では、社会科学系学部が88万人から約83万人となり、他学部 비해学生の減少が大きくなっています。

▼専修学校の学生数

専修学校の学生数の減少は顕著で、京都府内介護福祉課程は

就職フェアの開催状況

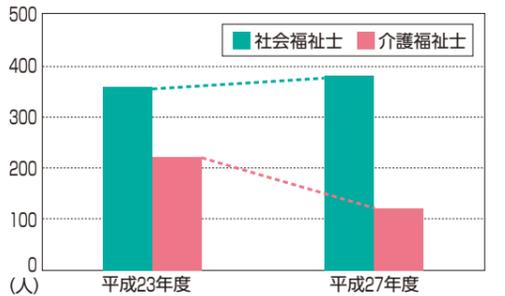
▼減少するフェアの来場者数

就職フェア（全域）来場者は、ここ数年で変化しており、平成24年5月に651人の来場者が、平成28年6月には266人と59%の大幅な減となりました。主な原因として、労働市場が売り手市場であること、社会福祉養成校の学生数の減少等の影響が考えられます。

▼今年度の来場者の動き

来場者の学生数は、平成28年6月に184人、29年6月では

表2 介護福祉・社会福祉課程の学生数の変化（京都府）



先を見据えた取り組みの必要性

現在は、福祉系学部の学生が福祉業界ではなく他産業へ就職している状況があり、これらの学生を福祉業界へ引き留めるような仕掛けが必要です。就職先

の方向を決める前の早い段階から福祉業界が就職先としての魅力を正しく伝える取り組みが必要です。

北部人材の確保

人材センターでは、昨年度にマンガ等を取り入れ親しみやすくした「福祉のお仕事まるわかりBOOK」の作成を行いました。また就職フェアの冊子では求職者から分かりにくいとされている福祉業界処遇面について、給与の手取り額が分かるような記載や休暇制度を明記する等、

見せ方に工夫をしてみました。今後、福祉系以外の学生へも福祉業界へのアプローチについて、更に工夫を加えていきます。

就活スタートアップフェア

福祉系学部だけでなく全ての学生に呼びかけ「就活スタートアップフェア」を平成30年2月6日（火）にメルパルク京都で開催します。この事業では、代表の社会福祉法人の社会貢献等の取り組みを紹介するとともに、福祉の仕事の魅力発信や就活に役立つセミナーの実施、展示・体験型の福祉コーナーの設置を検討しています。また、北部人材確保の取り組みも紹介していく予定です。

福祉系以外の学生へは仕事の魅力やキャリアアップについて転職者・主婦などを含めた一般求職者へは助成・移住関連事業の紹介を行っていききたいと思います。

一丸となって福祉人材確保を

就職フェアは平成24年度から人材センターだけでなく、京都府内の介護・福祉事業者団体や職能団体等が参画する実行委員会が企画・運営しています。実行委員会を中心に、業界全体を活性化させるため、福祉事

業所等に発信力の向上と広報力の強化を呼びかけています。人材センターでは社会・経済状況を合わせた課題や取り組みを検討し、人材センターの強みを活かした事業実施を進めながら、福祉人材確保に福祉業界全体が一丸となって取り組んでいくような、連携・協働体制づくりを目指していきます。

新役員就任のお知らせ



常務理事
余田 正典

この度、6月26日開催の評議員会、理事会において選任された常務理事に就任いたしました。微力ではありますが、役員や会員の皆さまとともに、事務局職員の協力を得て、地域福祉の一層の推進に努めてまいります。

ご承知のとおり、私どもが直面する福祉課題は、少子高齢化の進行を背景に、子育てと就労、介護と住まい、障害と社会参加、生活困窮と孤立など様々な要因が複雑に絡み合っており、複合的な支援を

地域で横断的、重層的に提供していくことが大切となっております。

社会福祉協議会は、地域の福祉に関わる全ての人を結び付け、さらに広く住民の皆様と協働を働き掛け、多様な福祉課題に対応できる。地域の福祉力、を築き、高めていくことが重要な使命であると考えております。

「府社協アクションプラン」に掲げる活動理念「つながりをとおして、だれもが尊厳をもって生きることが出来る京都」に沿い、それぞれの地域の福祉課題に取り組む皆さまとしっかりと連携し、その実現を目指してまいりますので、よろしくご願ひ申し上げます。



福祉のお仕事まるわかりBOOK

FUKUSHI就職フェア



▲みやこめっせの会場全景



▲施設の魅力をPR



▲ブースで施設職員が熱心に説明



▲リレートークに聞き入る来場者



さんさん山城の
農福連携

誰もが仕事を通して 地域の担い手になる

近年、農業と福祉を結びつけてそれぞれの課題を一括して解決しようとする「農福連携」が広がっています。京都府でも本年5月に「きょうと農福連携センター」が開設され、農業による障害者の就労機会の創設や地域住民と交流をする居場所づくりを行うことにより、「共生社会」の実現を目指した京都式の取り組みを進めていこうとされています。今回、早くから「農福連携」の取り組みを行ってこられ、平成27年に国より「農福連携モデル事業所」（全国9事業所）の一つにも選出された京都聴覚言語障害者福祉協会の山城就労支援事業所「さんさん山城」（京田辺市）の実践を紹介します。



地域と関わりながら楽しく仕事をする

さんさん山城は聴覚障害などがある障害者の就労支援施設として平成23年に開所し、当初から利用者が地域の人と関わりながら仕事をするのが意識的に追求されてきました。開所時から関わってきた職員の藤永実さんは次のように語ります。

「周辺一帯は農地や緑地など自然がたくさん。恵まれた環境ながら、農家は高齢化が進み、後継者不足は深刻で耕作されなくなった農地も少なくありません。私たちには農業の知識も技術もありませんでしたが、幸い人手はいます。人手を要する農業と地域に根ざした仕事をしたい私たちがうまく結びつけば、地域経済の活性化に役立つと考えたのです」

「産地担い手養成塾」（京田辺市の生産者組織が中心となり、

J Aや市・府が連携・協働して開設に職員と利用者が参加して、ベテラン農家から栽培・収穫・出荷に至るノウハウを学び、京都えびいも・京都田辺茄子の栽培へとチャレンジの幅を広げてきました。また、お茶農家から引き継いだ茶畑を再生させた宇治茶を栽培し、手摘み収穫もおこなっています。現在は「えびいもコロッケ」「濃茶大福」「抹茶クッキー」「田辺なすジャム」など数々の加工品も開発・販売し、これらは地元京田辺市や近隣の地域で人気商品となっています。

今年に入って施設内に一般利用も可能なコミュニティカフェをオープンし、6月にはとれたて野菜を利用したランチメニューもスタートさせました。

主役は職員ではなく利用者

宇治茶・えびいも・京都田辺茄子の栽培・加工・販売まで一貫して行うことにより、誰もが活躍できる場を用意することができます。畑作業を行う人、出荷作業を行う人、加工品を作る人、コミュニティカフェで調理や接客を行う人、イベントなどに出席して販売を担当する人など様々です。

職員の新免修さんは「ある利用者は、幼い頃からずっと家の畑を手伝い、非常に高い農業技術を有していて、その知識や経験を遺憾なく発揮しています。また別の利用者は接客が得意で、模擬店ではいつも前面に立って販売しています。みんなが個々の能力を発揮して仕事をするのが利用者自身の誇りにつながっているのではないのでしょうか」と言います。利用者の鶴ノ口信男さんや松平和也さんは「農業は楽しい。自分たちが作った野菜で喜んでもらえるのはうれしい」と満面の笑顔。利用者の多くは聴覚障害者ですが、知的障害や精神障害がある人も

いて、異なる障害がある人といっしょに作業を行うことでいい刺激を与えています。利用者の安全面については、施設から離れた農園での夏場の作業は気温がまだ高くない午前中に限るなど、利用者の健康状態に配慮した作業スケジュールを組んでいます。

また、さんさん山城ではコミュニティカフェを地域に開放して、コミュニティ拠点としての役割も大きくなってきています。子育て支援や環境保護などの市民団体が場所を借りて活動しており、そこでも職員・利用者や地域住民の交流があります。

「デルです」と語ります。さんさん山城は地域住民の貴重な活動場所にもなっています。コミュニティカフェを利用してランチ交流会などを行うNPO法人そよかぜ子育てサポートの村坂美世さんは「地域の三世代が集えるさんさん山城はランチ交流会の場所にぴったり。さんさん山城の皆さんと地場野菜を使った料理を提供できます。食事があった方が会話も進むし交流も深まります。今後はランチ交流会だけでなく、地域の人と人を結び、さまざまなイベント

で利用できそうです」と夢がふくらみます。

「さんさん山城が地域にあっただけよかった」。藤永さんや新免さんは、こう言ってもらえるようにがんばりたいと意気込んでいます。

障害者と地域が仕事を通じてどのようにつながればいいのか。さんさん山城が地域の特性を考慮して出した答えは「農福連携」でした。こうした障害者と地域の自然な交流が「地域共生社会」の土壌を豊かなものにし

DATA
社会福祉法人
京都聴覚言語障害者福祉協会
就労継続支援B型
山城就労支援事業所
「さんさん山城」
〒610-0322
京都府京田辺市興戸小毛詰18番1
TEL. 0774-39-7113
FAX. 0774-65-4102

「さんさん山城が地域にあってよかった」と言われるように

地域において、さんさん山城の存在感はますます大きくなっています。

京田辺市役所農政課の伊藤臣亮さんによれば「さんさん山城の利用者は支援される障害者ではなく、地域経済の活性化に役買う農家の担い手さんであり、貴重な人材。就労支援事業所といえは屋内作業が多いのですが、こちらには畑に出て農作業をされ

るので、地域住民にとっても親近感があり、互いに理解が深まるのでは。コミュニティカフェにより、さらに地域に開かれた施設になったと思います」。山城北農業改良普及センターの寺岸明彦さんは「非常に勉強熱心で、農業と商業を結びアグリビジネス講座にも出席されています。農業を通じた地域貢献、農業を軸にした産業連携のよいモ



京都田辺茄子の出荷作業



藤永 実さん



新免 修さん



宇治茶を使ったお菓子
濃茶大福、抹茶クッキー



ランチ交流会の様子

夢中! 熱中! ふくしびと

だから続けたい この仕事

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で「熱い福祉」を「夢中」で実践している方々にスポットをあてて、元気や楽しさ、やりがいを「生」の声でお届けします。

安井 将さん やすい しょう

施設名 社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会
いこいの村聴覚言語障害センター いこいの村 たからの里(就労継続支援B型事業所)
〒629-1242
京都府綾部市十倉名畑町久瀬谷2
HP/URL : <http://www.kyoto-chogen.or.jp>
TEL.0773-46-0101 **FAX**.0773-46-0610
職種 : 生活支援員 **経験年数** : 4年
★好きな言葉 : ありがとう
★夢中になっている事 : バスケットボール



「自らが範となって仲間を導きます。」

★**仕事を始めたきっかけは?**
私は耳が聞こえません。当法人に就職するまでは、一般企業で仕事をしていました。
「会議に参加してもついていけない。コミュニケーションが壁になって思うように仕事ができなことがきっかけです。福祉分野に興味はなかったのですが、私自身子供が大好きで聴覚障害児に関わる仕事に就けるなら!と思い就職しました。」

★**仕事の内容とやりがいは?**
私はたからの里で仲間(利用者)と一緒に石窯ぱんの販売や納品、今年の6月より始めたランチの接客を担当しています。現在、納品販売だけではなく、パン作りにもチャレンジをしているところです。それぞれの仲間の得意分野を見つけ、仲間が自信をもって仕事に取り組んでいるところをみるとすごく嬉しい気分になります。一番嬉しかったのは、パンを購入していただいたお客さまに「ありがとう」と一言笑顔と手話で言えるようになったこと。その時は感涙しそうになりました。仲間の成長は本当にやりがいに繋がりますね。

★**プライベートの過ごし方は?**
休みの日はバスケットをしたり、た



まにサーフィンにいたりしています。
また、京都府聴覚障害者協会青年部の役員をしており、手話を広める活動をしています。
この活動は今の仕事に活かしていますよ。

★**今後の目標(抱負)は?**
私自身、仲間と同じ聴覚障害者を持っていません。聞こえないからできないではなく、聞こえなくてもこう工夫すればできるんだよ、相手に伝わるんだよという風に私が「見本モデル」になることです。同じ障害をもつ仲間として、自信をもって働けるように、仕事を楽しんでいると思ってもらえるように頑張っていきたいです。

つながろう、ささえあおう
みんなが寄れることの幸せを感じながら

平屋地区福祉推進協議会(南丹市)



手作りの人形に出迎えられて木造りの玄関に入る。ここは南丹市美山町、旧平屋小学校。採光の良いランチルーム。地元ボランティアグループの軽快な音楽に合わせて歌声と軽妙なトークが響く。

いつでも集まる場を



私たちは地域の中で、様々な人・団体と関係の糸をつむぎあいながら暮らしています。今回のシリーズより、「つむぐ」をテーマに住み慣れた地域での暮らしや生活を育むために活動されているの方々を取り上げ、活動に対する想いやエピソードを交えながら、取組を紹介していきます。

今日は久しぶりの「つたごえカフェ」、地区の住民30名あまりが集まった。懐メロや唱歌をアカペラも交えて賑やかに歌う。おやつも役員さんの手作り。締めくくりは「平屋いきいき体操」を全員で。お腹の底から声を出して、体を動かして、「あ〜楽しかったな」と参加者に笑顔があふれる。「地区にいつでも集まれる場」をつくってきたい」と会長の柘下修さんは言う。

くらしの声を掴み、活動を創る

平屋地区福祉推進協議会は平成23年に設立された地区の福祉推進組織。ふれあい委員(福祉委員)、民生児童委員、ふれあいサロンなどで構成されている。活動の特徴は?と尋ねると「やっぱり、住民の参加型やね」。役員がプログラムを提供するのではなく参加者、住民みんなで創る。今日のカフェの後のふりかえりでも、「やっぱりみんな参加するのがええな〜」という声に役員がうなずく。



もうひとつの特徴は「声をしっかり掴む」こと。設立の年に、大谷大学と協働してアンケート調査(くらしと地域福祉の実態調査)を仕掛けた。予想とは異なり住民の声として最も多かったのは「集まれる場がほしい」。「思っていたことは違う結果が出た」と当時、事務局長だった原田朱美さん(現副会長)は言う。「その声」を受けて実行したのが集落ごとにふれあいサロンをつくること。地区には10の集落があり、最も小さな集落は10数世帯。しかし、驚くべきことに、4年後には10集落すべてでふれあいサロン活動

平屋地区×つむぐ

平屋地区にとつての「つむぐ」とは?の問いに「小さいことの積み重ね」「切れないこと(つながり、続ける)」「織りなすこと」と役員から口々に言葉が出る。先日、市町村社協職員向けの研修会を平屋地区で実施した際に柘下会長から「一人で百歩より百人で一歩」という言葉をいただいた。高齢化が進んでいる地域は数多く存在する。住民同士が「みんなが寄れることの幸せ」を感じ、日々の小さなことを積み重ねていくことが、住み続けることのできる地域を創ることにつながっていく。

が始まった。また、平成27年には、南丹市社協の第2次地域福祉活動計画に合わせて、平屋地区の住民福祉活動計画「住み続けたい平屋プラン」を策定し全戸に配布した。活動を活発にできる理由として「引く張るリーダーがいることと仲間がいること」と市社協の坂本暁人美山事務局長は言う。

京都府社会福祉協議会 からのお知らせ

寄贈

ご寄贈ありがとうございました

平成29年6月から7月にかけて岡本株式会社様より京都母子生活支援施設協議会、京都児童養護施設長会、京都府児童福祉施設連絡協議会に靴下の御寄贈をいただきました。ありがとうございました。



案内

福祉職場見学ツアーを開催します！

福祉職場への興味・関心、就職をお考えの方はぜひご参加ください。

- 日時 9月22日(金)、29日(金)、30日(土)

京丹波以南の事業所で1日2～3か所見学する7コースを実施(予定)

- 対象 福祉職場に興味・関心または就職をお考えの方(一般・学生)

きょうと介護・福祉職場面接会&相談会、セミナーを開催します！

- 日時 9月26日(火) 13:00～18:00

就職お役立ちセミナー「ストレスマネジメント」13:00～14:30、面接会14:30～18:00

- 会場 ハートピア京都3階大会議室ほか(市営地下鉄丸太町駅5番出口からすぐ)

- 対象 福祉職場に就職を希望する一般・学生(来年3月卒業予定)の方

保育園就職フェアを開催します！

保育園で働きたい方、就職のチャンスです。ぜひご参加ください。

- 日時 10月1日(日) 12:30～16:00

- 会場 みやこめっせ1階第2展示場(市営地下鉄「東山」駅下車徒歩8分)

- 対象 保育園への就職を希望する一般・学生(来年3月卒業予定)の方

福祉資格者就業サポート研修を開催します！

介護職への就労、復職をサポートする研修を開催します。介護の仕事をしたい方、ぜひご参加ください。

- 日時および会場

(北部) 10月21日(土) 10:00～16:00

10月22日(日) 10:00～16:30

福知山公立大学(JR福知山駅から車で5分)

(南部) 11月16日(木) 10:00～16:00

11月17日(金) 10:00～16:30

ハートピア京都4階第5会議室(市営地下鉄丸太町駅5番出口からすぐ)

- 対象 介護職員初任者研修等を修了し、介護職に従事していない方
 - 主な内容 第1日 認知症ケアの知識・必要とされる介護人材について、第2日 介護の知識・歩行介助等の実技
- 【問い合わせ先】
福祉人材課 TEL.075-252-6297

「社会福祉士受験対策セミナー」のお知らせ

- 日時 10月21日(土)、11月11日(土) 12月10日(日)
- 時間 10:00～16:30
- 会場 10月21日、11月11日：京都光華女子大学
12月10日：京都市内(受講決定時にお知らせします。)

- 受講料 24,000円(3日間分)
- 指導講師 伊東利洋氏(有)いとう総研 取締役
- テキスト 見て覚える！社会福祉士国試ナビ2018

ホームページからお申込みいただけます。※詳しくは、下記までお問い合わせください。

- 【問い合わせ先】
研修課 TEL.075-252-6296
http://www.kyoshakyo.or.jp/event/

- 本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

http://www.kyoshakyo.or.jp

京都府社協

検索



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。

平成29年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ぶくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために！

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

1 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金補償限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	死亡10万円 後遺障害0.3-10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)	死亡10万円 後遺障害0.3-10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)
	傷害見舞費用	死亡時100万円 入院時1.5-7万円 通院時1-3.5万円	

保険期間1年

▶ 年額保険料(掛金)	
定員	基本補償(A型)
補基本 A型 1~50名	35,000~61,460円
51~100名	68,270~97,000円
以降1名~10名増ごと	1,500円
付見舞費用 B型	基本補償(A型) 保険料 + 【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 施設職員の補償

プラン4 社会福祉法人役員等の補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。



です。 充実した補償と 割安な保険料

スケールメリットを活かした

- ◆29年度新設 看護師の賠償責任補償(プラン1-①オプション2)

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763